



最近、校舎から見える夕日がキレイです。赤から紫、濃紺へと変化していく秋の空をながめっていると、あっという間に時間が過ぎていきます。夕暮れ時がこんなに美しいものだとは思ってもよらず、ちょっとした発見です。街に明かりがともるころ、ほんの数分だけ空は赤い色から深い紺色へとかわります。わずかな数分だけしか見るのでできないコバルトブルーはとてもすてきです。そして、ふと見上げれば満月が空にかがやいています。こんなに大きかったかなと思うほどに大きな月。普段はほとんど意識したこともないような存在に、見とれてしまうのも秋のせいでしょうか。



明日はいよいよ体育大会です。今年は新型コロナウイルス感染予防のため、規模を縮小しての開催となりました。午前中だけの開催で、種目も大幅に削減、観覧は3年生の保護者のみとなります。例年とはかなりちがったものになりそうですが、気持ちは引き締めて取り組みたいものです。

さて、体育大会では、勝つとか負けるとかいわゆる勝負というものがあります。勝つか負けるか、これっていったい何に対して「勝つ」「負ける」といっているのでしょうか。レースには相手があるわけですから、当然その相手に対して勝負をいどみ、白黒をはっきりさせるわけであります。ここでいうところの相手とはいったいだれなのでしょう。となりのコースでいっしょに走る他のクラスの生徒のことなのでしょう。

相対的に物事をとらえては真実を見失います。目の前に見えるものだけにとらわれてはいけなと思います。絶対的に動かぬ価値のあるものを見失って、目の勝負だけにとらわれては、ほんとうに大切なものをおきざりにしてしまうような気がします。となりの走者に勝ったか負けたかということが真の勝負ではないといいたいのです。もちろん目に見えるかたちでの勝利はみなさんのはげみになるでしょうし、敗退は落胆の原因になるでしょう。だけどそういうことが真に大切なものではないのです。

相対的なもの（だれがだれに勝ったとか負けたとか・・・）ばかり考えていても価値はないと思います。レースの組み合わせ（だれと走るのかということ）によって着順はかわってくるのですから。

では大切なことは何でしょうか。「自分に」勝てたかということです。ドキドキしていた自分に勝てたかどうか、はずかしいな、失敗したらどうしよう、と思っていた自分にうち勝つことができたかどうか、そして、負けたらどうしようと思っていた自分がほんとうに負けたとき、そのときのふるまいとして真に価値のあるふるまいができたかどうか・・・ということではないでしょうか。



今宵、中秋の名月 がんばるみなさんを照らし、励ましてくれることでしょう。